



## FC今治

誰もが自分らしく。体を動かし、心つながる居場所『アシさとクラブ』。～行政・企業・学校と手を取り合い、広がる地域の輪～ 1/2

2025年正式発足した「アシさとクラブ」では、ランニング・ウォーキングや健康をテーマにした活動、コミュニティ作りをアシックスと一緒に進めてまいりました。2023年より今治市教育委員会の体力向上事業を受託し、小中学校での走り方教室を実施。今治市が主催する「今治里山マラソン」公認練習会も開催しました。他競技チームや大学とも協力し、2025年末までに延べ2,000名が参加。年齢や障がいの有無に関わらず、誰もが自分らしく挑戦し、支え合う「包摂的なコミュニティ」の実現をスタジアムを拠点に継続しています。



## 活動場所

アシックス里山スタジアム、今治市内小学校、今治市内中学校、イオンモール今治新都市、清正乃湯 瀬戸内温泉プール、今治市内ほか



## 協働者

行政、企業、住民、学校、ファン・サポーター、スタジアム、企業スポーツクラブ

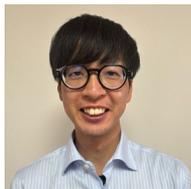
## 協働者名

株式会社アシックス、今治市、今治市教育委員会、イオンモール今治新都市、日本食研実業団トライアスロン部、今治造船ローイングチーム、今治明德短期大学、株式会社NINO



## 協働者の声

今治市役所スポーツ振興課／鴨川 源太 氏



アシさとクラブとの連携により、今治里山マラソンが大会当日だけでなく、日常の運動へとつながる取り組みに発展していると感じています。公認練習会を通じて挑戦のハードルが下がり、人と人がつながる輪が地域に広がりました。今後も官民連携のもと、持続的な地域づくりにつなげていきたいです。



## 活動詳細情報

- 1 [公式サイト①](#)
- 2 [南海放送①](#)
- 3 [南海放送②](#)
- 4 [愛媛新聞](#)
- 5 [公式サイト②](#)
- 6 [アシさとクラブInstagram](#)
- 7 [公式YouTube](#)



## カテゴリ(SDGs)／取り組みテーマ





FC今治

誰もが自分らしく。体を動かし、心つながる居場所『アシさとクラブ』。～行政・企業・学校と手を取り合い、広がる地域の輪～ 2/2

## Story

### 「アシさとクラブ」の理念

FC今治とアシックスが運営する「アシさとクラブ」は、アシックス里山スタジアムを拠点に、運動や健康をきっかけにすべての人が心身ともに健やかで、地域の繋がりを実感できる場所です。年齢や経験、障がいの有無に関わらず、誰もが自分らしく参加し、挑戦や成長を楽しめる「包摂的なコミュニティ」の実現を目指して活動しています。

### 深まる行政との連携

この枠組みの中で、2024年にリニューアルした「今治里山マラソン」に際して市から依頼を受け、計7回の公認練習会を実施しました。完走を目指す初心者から記録を狙う層まで、実戦的なコース攻略や走り方を直接サポートしました。



また、行政との連携は教育現場にも広がっています。2023年より市教育委員会の体力向上事業として小中学校で「走り方教室」を継続的に受託しています。最新の知見を活かした指導により、受講した児童・生徒の半数以上でタイムが向上するという成果を得ました。

### 世代や障がいを超えて

活動はマラソンや学校教育に留まらず、2024年5月より定期的なランニング・ウォーキングイベントを継続。2025年12月末までに延べ約2,000名が参加しました。アシックスの技術を活用しながら、1歳～77歳まで障がいの有無を問わず多様な人が参加し、自分のペースで運動できる場を維持しています。

### スタジアムから広がる輪

特徴的なのは、地元のリソースを活かした協力体制です。地域の商業施設であるイオンモール今治新都市で幼児向け運動能力評価プログラムを行ったり、今治造船ローイングチームや日本食研実業団トライアスロン部が指導に加わり、競技の枠を超えた運動の選択肢を提示。さらに今治明德短大とはウォーキング企画「みちくさんぽ」を実施し、地域の歴史や文化を



学びながら歩くことで、多様な世代が自然に対話する場が生まれています。

### 持続可能なコミュニティへ

行政の課題への協力や、専門的な知見を活かした指導、そして地域の各団体を巻き込んだ交流。こうした一つひとつの積み重ねの結果として、スタジアムを起点とした多世代のコミュニティが少しずつ定着し始めています。サッカーを通じた結びつきにとどまらず、スポーツや健康をきっかけに多様な人がつながることができる場を目指して。今後も、誰もが無理なく続けられる健康と交流の仕組みとして、この活動を継続していきます。